

公安委員会定例会議(第24回)の開催状況

第1 日 時 令和4年10月5日(水)

午後1時30分 ～ 午後3時10分

第2 出席者 五葉委員長、曾我部委員、渡部委員

本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、生活安全部長
刑事部長、交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長
総務課長

第3 議事の概要

1 曾我部委員説示

本日は、「貨幣」についてお話しします。

一説によると、貨幣が誕生する以前の市場では、物々交換のほか、支払いに砂金が使用されていたようで、その価値に見合った砂金を計量して支払っていましたが、商取引の都度計量する必要があったため、スムーズに取引できなかつたようです。こうした問題を解決するために生まれたのが貨幣です。世界最古の貨幣は紀元前6世紀頃に作られたエレクトロン貨と言われ、その便利さ故に瞬く間に世界中に貨幣が広がっていきました。

最近では、ビットコインを始めとする暗号通貨のニュースが報じられ、世界各国がその価値を認めていく風潮があるほか、日本においても金融庁がどのように法整備を進めていくか検討しています。

暗号資産には、「一瞬で決済できる」、「銀行等を介さずに自分が管理できる」、「国境がない」、「秘匿で取引できる」といったメリットがあると言われており、今後、日本国内でも一層普及していくかもしれません。

一方で、こうした暗号資産の普及により、ますます仮想空間という目に見えない世界が広がり、これまで以上に不正アクセスや破壊行為といったサイバー犯罪、新たな手法による詐欺等の増加が懸念されます。

警察においては、サイバー犯罪捜査への対応が後手に回ることがないように、仮想空間という追跡困難な暗号資産にまつわる犯罪等が増加することを想定し、捜査技術の向上や人材の育成に計画的に取り組んでいただきたいと思います。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和4年第23回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 聴聞の実施結果(2件)

生活安全部から、聴聞の実施結果について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 令和4年度愛媛県殉職警察職員・警察協力殉難者慰霊祭の実施

警務部長から、令和4年度愛媛県殉職警察職員・警察協力殉難者慰霊祭の実施について報告があった。

委員から、「命を落とした方々を慰霊することは大切である。今後も途切れることなく毎年実施していただきたい」との発言があった。

委員から、「慰霊祭を実施することにより、県警全体で殉職者の絶無を誓う機会にもしていただきたい」との発言があった。

(2) 「令和4年秋の勲章及び褒章伝達式」の開催

首席監察官から、「令和4年秋の勲章及び褒章伝達式」の開催について報告があった。

委員から、「受章者やご家族等の喜びに加え、後継者の励みにもなる。受章された方々をしっかりと祝福していただきたい」との発言があった。

(3) 地域警察官の活動状況（5月～8月）

生活安全部長から、5月から8月までの地域警察官の活動状況について報告があった。

委員から、「地域警察官は県民と最も身近に接する立場にある。引き続き、県民に寄り添った各種活動に真摯に取り組み、県警全体のイメージアップにもつなげていただきたい」との発言があった。

委員から、「制服を着た地域警察官の姿を見せることが県民に安心感を与える。今後も高齢者から幼稚園児に至る全ての世代を対象に様々な地域警察活動に取り組んでいただきたい」との発言があった。

(4) 令和4年度愛媛県警察サイバーセキュリティユースコンテストの開催

生活安全部長から、令和4年度愛媛県警察サイバーセキュリティユースコンテストの開催について報告があった。

委員から、「こうした競技会は、若手警察官がサイバー犯罪捜査に興味を持つ良い機会になる。引き続き、サイバー犯罪捜査に関する幅広い教養等を実施していただきたい」との発言があった。

(5) 特殊詐欺未遂（オレオレ詐欺）事件被疑者の逮捕～「だまされた振り作戦」の実施～

刑事部長から、特殊詐欺未遂（オレオレ詐欺）事件被疑者の逮捕について報告があった。

委員から、「依然として詐欺被害に遭う人がいる。『だまされた振り作戦』の啓発活動に取り組み、特に犯人から電話がかかってきた時のだまされた振りと、その後の警察への速報等の協力要請について分かりやすく広報していただきたい」との発言があった。

委員から、「県民を詐欺被害から守るため、引き続き知恵を絞り、様々な手段を用いて広報していただきたい」との発言があった。

委員から、「被害者の協力を得て被疑者を逮捕できたことは良かった。

引き続き、事件の全容解明に向けて捜査を進めていただきたい」との発言があった。

(6) 令和4年度上半期における交通鑑識系の活動状況

交通部長から、令和4年度上半期における交通鑑識系の活動状況について報告があった。

委員から、「出向経験者が県外出向を通じて習得した新たな捜査手法を関係職員に還元し、県警全体の能力向上に努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「引き続き、装備資機材を活用した緻密な捜査により交通事故事件の真相を解明していただきたい」との発言があった。

4 その他

(1) 刑事部長から、8月1日に発生した松山市樽見における現住建造物等放火事件の被疑者の逮捕について報告があった。

(2) 本部長から、「委員説示のとおり、暗号資産にまつわる犯罪が発生した場合は、中四国管区警察局愛媛県情報通信部や警察庁サイバー警察局と緊密に連携し、最先端の捜査が展開できるように対処したい。一方で、社会情勢の変化やサイバー関連技術の進歩に伴い、警察署レベルでサイバー関連事案の対応が必要になることを想定し、県警全体のサイバー犯罪対処能力の底上げにしっかりと取り組んでまいりたい」との発言があった。

以上